

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |               |    |           |
|----------------|---------------|----|-----------|
| ○事業所名          | 児童発達支援センターげんき |    |           |
| ○保護者評価実施期間     | 令和7年1月30日     | ～  | 令和7年2月26日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)        | 52 | (回答者数) 34 |
| ○従業者評価実施期間     | 令和7年2月3日      | ～  | 令和7年2月20日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)        | 9  | (回答者数) 9  |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年3月28日     |    |           |

## ○分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること          | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等          |
|---|---|---|-------------------------|
| 1 | ご家族の子育てをサポートするため、親子療育の実施。<br>単独療育においても、週1回親子療育日を設定。 | 保護者勉強会、ペアレントプログラム、ペアレントトレーニング、CAREプログラムの実施。<br>親子の愛着関係の形成・安定化のための保護者支援。   | 医療機関や母子保健事業実施機関等との連携強化。 |
| 2 | 対人関係、社会性、コミュニケーション力を養うため、小集団療育を充実させている。             | 絵・文字カードやモデリング等の視覚支援。<br>ミュージック・ケア等での発語・身体表現活動。<br>対人遊び、ソーシャルスキル・トレーニング等による対人関係や社会性の涵養。<br>療育全体を通しての言語、コミュニケーション力の向上 | 職員のスキルアップ(研修)           |
| 3 | プレールームが充実している。                                      | 遊具を組み合わせたサーキット活動等を通しての基本的動作・協調運動動作の習得、姿勢保持・体幹機能・バランス感覚・ボディイメージ力の向上。<br>視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有受容覚等の統合促進、感覚調整の円滑化。           | 職員のスキルアップ(研修)           |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                   |
|---|--|---|--|
| 1 | 医療的ケアが必要な児童の受け入れができない                      | 医療的ケアができる職員がいない<br>医療的ケアができる施設設備がない   | 現時点では受け入れは困難。  |
| 2 | 身体に障害を持つ児の受け入れが困難                          | 多目的トイレやエレベーターは設置しているが、身体に障害を持つ児が、1日を通じて小集団生活を送るには、療育室等が狭隘である。またスタッフも足りていない。 | 現時点では受け入れは困難。  |
| 3 | 児童発達支援センターとしての中核機能の発揮が不十分                  | センターとしての発信に努めているが、民間事業主であるため、センターとしての事業と1事業者としての事業との区別がつきにくい。               | 講演会の開催など地域への情報発信、地域全体のスキルアップ、連携強化の呼びかけなど、センター機能の充実に努めた |